

Urban Safari

[アーバンサファリ]

Mar. 2020 Vol. 14

Cover Story
ダニエル・クレイグ

Delight Bright
Light Clothes.

楽しさ誘う軽快な服。

Contents

- 08 COVER STORY ダニエル・クレイグ
- 11 in Your CLOSET
- 16 ジャケット姿の“軽快魅せ”に大人の白スニーカーを1足。
- 18 春を迎えるコートは“薄軽”が気持ちいい。
- 24 NEW HOTELS IN HAWAII
- 26 BED ON BOARD
- 35 Gastronomic City OKINAWA

Luca Delfino

ルカ・デルフィノ / マセラティ アジアパシフィック地域統括責任者

電動化を発表した〈マセラティ〉の未来とは？

昨年11月、未来に向けたイノベーションプランを発表したイタリアの名門〈マセラティ〉。その中には電動化への取り組みもあり、「あの感動的なエンジンを擁する〈マセラティ〉が！」と多くの人は思ったことだろう。そんな中で、ブランドの輝かしいヘリテージはどのように継承され、新しい価値として提供されるのか。アジアパシフィック地域統括責任者を務めるルカ・デルフィノに聞いてみた。「〈マセラティ〉は、これまでレーシングカーとロードカーの双方で栄光の歴史を作ってきました。1957年には、F1でワールドチャンピオンを獲得していますが、レーシングスピリットはブランドのDNA。5月にお披露目するMC20というスーパースポーツカーはそれを最も体現したモデルとなります。一方で、長距離を楽しく快適に走る“グランドツーリング”も大切

なDNAです。それらのDNAは、革新を重ねた未来においても変わりません」

気になる電動化は今年から本格派。まずは、中型スポーツセダン“ギブリ”にマイルドハイブリッド車が設定される。

「パワートレインの電動化に関しては、未来に向けて重要な取り組みです。しかし、たとえ電動化しても〈マセラティ〉に対する期待には応えられると自負しています。なぜならそこには常にブランド独自のDNAが宿っているからです。そういえば、2018年に初のSUV“レヴァンテ”を発表した際にも、「〈マセラティ〉は変わってしまうのか」という心配の声をいただきました。しかし、そのレヴァンテが今ではブランドの顔として愛される存在になっているわけですから」。果たして〈マセラティ〉は未来をどのように変えていくのか。大いに期待したいところだ。

発行人&編集長
Publisher & Editor in Chief
藤原 晃
Akira Fujiwara
メディア事業部 部長
Director of Media Division
成井 毅
Tsuyoshi Narui

アートディレクター
Art Director
藤澤拓也
Takuya Fujisawa (ANAGUMA)
デザイナー
Designer
渋谷裕子
Yuko Shibue (ANAGUMA)

コトリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo
大嶋けいこ
Keiko Oshima
古関千恵子
Chieko Koseki
柴田 充
Mitsuru Shibata
たかせ藍沙
Aisha Takase
中村孝則
Takanori Nakamura
渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

発行
株式会社日之出出版
〒104-8505東京都中央区八丁堀4-6-5
編集 ☎03-5543-1230
広告 ☎03-5543-1139

- 本誌掲載商品の価格表示はすべて本体のみ(税抜き)の価格です。
 - 本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
 - 本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通 ☎03-5543-1230 までお願いいたします。
- なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

〈マセラティ〉

マセラティ5兄弟が、1914年にボローニャで創業。F1など数々のレースで勝利の記録を打ち立て、イタリアスポーツカー文化の発展に重要な役割を果たしてきた。一方、ロードカーではグランドツーリングを象徴する存在でもあり続けてきたブランド。ルカ・デルフィノは、2018年より現職に就任。



PROFILE

1968年、イギリス生まれ。ギルドホール音楽演劇学校で学んだ後、『パワー・オブ・ワン』で映画デビュー。『トゥームレイダー』『ロード・トゥ・パーディション』といったアメリカ映画にも出演するなど、活動の幅を広げていく。2004年、主演映画『レイヤー・ケーキ』『Jの悲劇』が話題となり、その翌年、6代目ジェームズ・ボンドに抜擢。他の出演作には、『ドラゴン・タトゥーの女』『ローガン・ラッキー』『ナイブズ・アウト/名探偵と刃の館の秘密』などがある。妻は女優のレイチェル・ワイズ。

DANIEL CRAIG

【ダニエル・クレイグ】

写真 = Greg Williams for Universal Pictures International 文 = 渡邊ひかる
photo : Greg Williams for Universal Pictures International text : Hikaru Watanabe

『007/カジノ・ロワイヤル』から『007 スペクター』まで、ダニエル・クレイグは英国秘密情報部のスパイ、ジェームズ・ボンドを計4作で演じてきた。半世紀以上の歴史を持つ人気シリーズだけに、新作の製作が決まるたび、世界中が注目するのは当たり前。シリーズ第25作となる『007/ノー・タイム・トゥ・ダイ』に関して、前作『007 スペクター』の公開から数年の月日がたっていることもあり、期待と好奇心の入り交じった声飛び交った。ダニエル・クレイグは再びボンドを演じるのか。そもそも、ボンドは新作に登場するのか。製作初期に監督を務めていたダニー・ボイルの離脱に触れ、「映画製作ではよくあることなのに、『007』シリーズだから話題になってしまった」と冷静に語るクレイグの様子から察するに、過熱した報道を気にする必要はなさそうだ。もちろん、ボイルからバトンを受け取った日系米国人監督キャリー・フクナガのもと、クレイグはこれまでどおりボンドを演じる。ただし、本作の冒頭、ボンドは現役スパイを退いているのだが。

「ボンドは任務を退き、ジャマイカで平穏な暮らしを送っていた。けれど、基本的にじっとしてられない性格だからね。忙しく動きまわり、健康を維持し、感覚が鈍らない努力はずっとし続けていたと思う。そんな中、CIA出身の旧友に助けを求められ、キューバへ向かうことになるんだ」

その後のストーリーは、もちろん公開まで極秘扱い。とはいえ、『ボヘミアン・ラプソディ』でアカデミー賞主演男優賞に輝いたラミ・マレックが悪役を演じることはすでに公表済みで、“ボンド対悪者”の構図は従来どおりだという。

「僕たちが製作の段階で話し合うのは、“恐怖”についてだ。悪役がなにをしようとしているのか。世界を滅ぼしたいのか、支配したいのか、仲間とだけ共有する気なのか。映画を作る際には、こういった疑問が浮かぶ。そのうえで、物語の中で起こる出来事を検討するにあたり、現実が必然的に関連づけられていく。映画の世界に現実を反映しないなんて、無理な話だからね。これまでの『007』シリーズでも、その時代の服装が反映されてきたし、当時の情勢の影響が見て取れる。『007/ゴールデンアイ』が製作された当時、“冷戦は終わったのに、まだボンド映画を作る必要が？”と意見する

人たちがいたそう。完全に間違っただけだね。世界はあの頃と変わらず複雑だし、悪いことを企む人間もまだいる。だからシリーズを作り続ける意味があるのだけど、これはボンド映画だから、倒すべき悪人のアジトというものがある。結局のところはファミリー映画だし、気骨のある激しい内容になればなるほど、観客には空想の作品として楽しんでもらえることを願っているよ」

また、エンターテインメントと社会性のバランスという点でいえば、少なくとも過去の『007』が女性に公平な映画ではないことも十分承知している。本作には、ラシャーナ・リンチ演じる黒人の女性エージェントが登場するそうだ。

「#MeToo運動には多くの課題があるし、問題を避けるつもりはないが、ボンド映画の中で直接的に解決することはできない。考え方の問題だからね。ラシャーナ演じるノミーは、すごく強い女性なんだ。彼女とのシーンは本当に楽しかったよ。ノミーのようなキャラクターを登場させ、ボンドに挑ませることが僕らには最善の方法だと思えた。それに、ボンドはあくまでもジェームズ・ボンド。欠点があり、ノミーの登場で内面が変わることはない。けれど、少なくとも観客は“それは間違っている”と意見を持つことができるだろうね」

『007』シリーズについて、ジェームズ・ボンドについて、クレイグは誰よりも深く向き合い、理解する人間のひとり。しかし、ボンドを演じるには今でも相応の“プロセス”が必要になるそうだ。

「最初にボンドを演じたときは、役作りに3カ月かかった。それが今では、1年くらいかかっている。まだ脚本がない段階でも、頭の中で役作りをはじめると。カラダを絞り、アクションシーンに備える必要があるからね。ボンド役に切り替えるというより、プロセスを踏んでいく感じだと思う。たとえば、素晴らしい衣装デザイナー、スティラット・アン・ラーラーブとNYで衣装の打ち合わせをするのも、大事なプロセスのひとつだ」

役との向き合い方を含め、ひとつひとつの言葉を聞けば聞くほど、ダニエル・クレイグ＝ジェームズ・ボンドの新たな姿を見るのが最後になるのが口惜しい。そう、彼はすでに、今回でのボンド卒業を公言している。意志は固いようだ。今年1月に日本でも公開された『ナイブズ・アウト/名探偵と刃の館の秘密』の続編企画が発進するなど、“非ボンド”な役柄でも、すでに高い評価を得ている。とはいえ、以前にも卒業宣言はあったことだし？ まずは、ダニエル・クレイグによる“最後のボンド”をしっかりと見届けたい。



『007/ノー・タイム・トゥ・ダイ』

現役スパイを退き、ジャマイカでの暮らしを満喫するジェームズ・ボンド。だが、CIA出身の旧友フェリックス・ライターが助けを求めてきたことで、平穏な生活は終わる。ライターの依頼は、誘拐された科学者の救出。想像以上に危険な任務に身を投じる中、ボンドはやがて最新の技術を保有する黒幕と対峙することに……。監督は『ビースト・オブ・ノー・ネーション』のキャリー・フクナガ。●4月10日(金)より、全国ロードショー

© Danjaq, LLC and Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved.

※公開は延期になりました(2020年3月13日現在)

They need to be fresh and we haven't got Bren guns in the front of the DB5, we've got miniguns. We've upped it a teeny bit!

新鮮さが必要だから、本作ではブレン軽機関銃ではなく

ミニガン(DB5のフロント部分に搭載している。少しだけ改良したんだよ!)

ダニエル・クレイグ

in Your

CLOSET*

リラックスした週末には、ホームメイドカクテルを。

休日の昼下がりに、気の置けない仲間が集まれば、にわかミクソロジストを気取ってカクテルでもてなすのもいい。これからどこへ繰り出そうか。でも、1杯のつもりがどうやら今日はこれで終わってしまいそうだ。

写真=野口貴司 スタyling=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=柴田 充 構成=大嶋けいこ
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Oshima

HOME
BARサンルイの
“マンハッタン”

バーで嗜む本格カクテルも美味しいが、セオリーに囚われず、新しいカクテルを自由に楽しもうというスタイルが注目を集めている。Mix(混ぜる)とology(論)から名づけられたミクソロジー。〈サンルイ〉のバーコレクション“マンハッタン”は、そんなひとときをよりラグジュアリーに演出する。1586年にフランスのガラス工房として設立後、ルイ15世に認められ〈サンルイ〉の名を授かった。その伝統と品質が極上の味を添えてくれる。

“マンハッタン”ミクソロジーセット(写真左からシェーカー、バースプーン、ジガーカップ)10万4000円、手に持ったロックグラス1万7000円(以上サンルイ/エルメスジャパン)、カーディガン19万1000円、シャツ7万5000円、(以上エルメス/エルメスジャパン)



in Your

CLOSET*

1日のスタートに心身ともに“整う”、朝の新習慣。

朝の時間は慌ただしい。だが、朝活に代表されるように、自分のために使える本当に自由な時間は朝かもしれない。そこで、まずは身支度から整えてみてはどうだろう。そんな朝の新しい習慣が1日を快適に過ごさせてくれる。

Boy de Chanel / ボーイ ドゥ シャンネル / Lab series / ラボ シリーズ / Fray / フライ / Erbaviva / エルバビーバ



SHIRT
フライの“ドレスシャツ”



MAKE UP
ボーイ ドゥ シャンネルの
“ファンデーションと
アイブロウペンシル”



FRAGRANCE
エルバビーバの“ボディスプレー”



SKIN CARE
ラボ シリーズの“スキンケア”

D
よりナチュラルな香りでフレグランスビギナーでも気軽に楽しめる〈エルバビーバ〉のボディスプレー。空気の乾燥時や花粉の時期に役に立つ。右は森林浴のような透き通った香り。左は朝はもちろん、仕事の合間にポジティブで明るい気分になりたいときに。シーンに合わせて使い分けてみたい。

右：エルバビーバ BR ボディスプレー 110ml 3900円、左：エルバビーバ AW ボディスプレー 110ml 3900円(以上エルバビーバ/ジョンマスターオーガニック グループ)

C
シャツは本来肌着であり、見た目もさることながら上質な肌触りや着心地を大切にしたい。〈フライ〉のシャツは、生地の宝石と呼ばれるカルロ・リーヴァ社の素材を採用。その特性に合わせ、部位毎に精細なカッティングを施す。袖を通した瞬間から、真のラグジュアリーが味わえるだろう。

シャツ5万3000円(フライ/ストラスブルゴ)、ネクタイ2万9000円(セブンフォールド/ストラスブルゴ)、メガネ3万4000円(アイヴァン/アイヴァン PR)

B
“ラボ シリーズ”は、男性の肌特性を研究し、1987年の誕生以来メンズスキンケアのバイオニアとして支持されている。洗顔後、肌を引き締め、潤いを与えるローション(写真右)に、肌のエイジングケアをもたらす乳液(中)のほか、過剰な皮脂や毛穴の汚れ、古い角質を拭き取るローションも用意。

右：ウォーター ローションRE 200ml 4000円 中：エイジRE 50ml 7000円 左：オイルコントロール クリアリング ソリューション 100ml 3200円(以上ラボ シリーズ/ラボ シリーズ お客様相談室)

A
〈シャネル〉初の男性向けメイクアップラインが人気。肌のテカりを抑え、保湿と抗酸化作用を備えたファンデーションは、年齢特有のシミを隠すコンシーラーとしても使い、アイブロウペンシルはより精悍な眉に整える。自然な仕上がりとともに、自信にあふれた表情に周囲の視線も変わるに違いない。

右：ボーイ ドゥ シャンネル ファンデーション N°40 ミディアム SPF25/PA++ 8000円 左：ボーイ ドゥ シャンネル アイブロウ ペンシル 208 ブラック 5000円(以上シャネル/シャネル カスタマー ケア)

in Your

CLOSET*

財布兼カードホルダーは横長を。これが胸ポケットにぴったり。

キャッシュレス化とともに、膨らんだ財布や小銭入れを持つ煩わしさがなくなった。代わってこだわりたいのがカードホルダー。ビジネスマンが選ぶなら、胸ポケットにぴったりなサイズがスマートでいい。

CARD
CASE**ベルルッティの
“エピュール カードホルダー”**

〈ベルルッティ〉のカードホルダーは、独自のヴェネツィア・レザーの表裏にブランドシグネチャーの“スクリット”を非対称にあしらい、控えめながらも躍動感あふれるモダニティを表現する。カードや名刺、小銭を収納でき、ジャケットの胸ポケットに入れても膨らんでもしまうこともない。モデル名の“エピュール”は、直線と曲線で対象物を立体表現する建築の製図法に由来する。極限まで削ぎ落とされた表現は、カードホルダーにも呼応する。

カードホルダー 7万8000円、ジャケット 26万5000円、シャツ 12万円、ネクタイ 2万8000円（以上ベルルッティ / ベルルッティ・インフォメーション・デスク）、その他はスタイリスト私物

フラットポケットのほか、コーナーを斜めにカットしたスロットは、カードの出し入れも容易



in Your

CLOSET*

うらかなドライブ気分をさらに弾ませる相棒。

春はドライブに行きたくなる。走るたび、千変万化する自然の風景は、華やかな生命力にあふれ、まさに春の饗宴だ。厚いコートに代わり、軽やかなファッションやアクセサリーが、気持ちをさらにアクティブに演出してくれる。

BRACELET

ダミアーニの
“ルーチェ ブレスレット”

CAR

マクラーレンの“マクラーレンGT”

C A
D B

SUNGLASSES

モスコットの
“レムトツシュ”

SUEDE SHIRT

ポール・スチュアートの
“スウェードシャツ”

D

1899年にNYで創設し、歴代多くのセレブリティに支持されてきた老舗メガネブランド(モスコット)。これは、ジョニー・デップも愛用する代表作“レムトツシュ”にアセテートと金属のコンビネーションを採用したもの。クリスタルの爽快感とクールな金属が調和し、目元を涼やかに演出する。

サングラス4万6000円(モスコット/モスコット トウキョウ)、クルマはAと同じ、シャツとTシャツはBと同じ

C

“テニスブレスレット”と呼ばれる細身のダイヤモンドブレスレットは、1987年の全米オープンでクリス・エバート選手がつけてプレイしたことから名づけられた。小粒ながらダイヤモンドの煌めきが存在感を主張し、スポーティな男の手元をゴージャスに飾る。重ねづけや時計とも合わせやすい。

ブレスレット(21cm)3万5000円、(19cm)3万5000円、リング32万円(以上ダミアーニ/ダミアーニ 銀座タワー)、クルマはAと同じ、シャツとパンツはBと同じ

B

春のスウェードシャツは、軽やかな着心地とともに、シックなエレガンスを感じさせる。パキスタン産の上質なゴートスウェードは、肌触りやなめらかさに優れ、ミルクレーンなベージュが上質感を醸し出す。オープン仕立ての襟はラフに着ても美しく、サイドポケットを備えたシャツブルゾンにもなる。

シャツ10万円、Tシャツ1万5000円、パンツ3万7000円(以上ポール・スチュアート/ポール・スチュアート ギンザ・タイムレス・エイト店)、クルマはAと同じ、ブレスレットとリングはCと同じ、サングラスはDと同じ

A

目的地も定めず、どこまでも走り続けたい。“マクラーレンGT”はそんなグランドツーリングの楽しさを具現化した、ロングドライブでの快適性と圧倒的な走行性能を両立した。さらに十分な最低地上高の設計や周囲の見切りにも優れ、街中での日常的な用途にも応える。まさに現代のスーパーカーだ。

全長×全幅×全高=4683×2095×1213mm エンジン：V型8気筒ツインターボ 排気量：3994cc 最高出力：620ps/7500rpm 最大トルク：630N・m/5500-6500rpm ギアボックス：7速AT 税込み価格2645万円(マクラーレン/マクラーレン オートモーティブ)



FENDI

[フェンディ]

ひと味違う横顔を特徴づけるレタリングディテールは、プリントではなく、白革に対し精緻なレーザーカットで描かれたもの。さすがに芸が細かい。スニーカー9万5000円、バッグ40万6000円(以上フェンディ/フェンディ ジャパン)

もはや運動靴ではない。

ジャケット姿の“軽快魅せ”に
大人の白スニーカーを1足。

比較的服装が自由な職種なら、普段はジャケットスタイルという人も多いはず。昨今ビジネスマンに白のベーシックスニーカーが人気なのは、そんなスタイルに実によく馴染むから。とはいえ、そのへの運動靴ではどうも大人らしさに欠けてしまうこともある。そこで今回は、大人が選ぶべきラグジュアリーな白スニーカーを選んでみた。是非この機会に足元を新調してみてもどうだろうか。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋けいこ
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN)
hair&make-up: Megumi Matsumoto text: Takami Ento composition: Keiko Oshima



BOSS

[ボス]

バスケットボールシューズにインスパイアされたシンプルな白スニーカー。なめらかなカーブで甲部を仕立て、ソールにはマイルドなハニーカラー。上品にしてクラス感漂う1足に。5万円(ボス/ヒューゴ ボス ジャパン)



JIMMY CHOO

[ジミー チュウ]

TOD'S

[トッズ]

CHURCH'S

[チャーチ]

右: タンと踵部分をシガー色のスウェードで切り替えたことによって、白レザーのきめ細かさがよりいっそう印象的に。6万1000円(チャーチ/チャーチ 表参道店) 中: アイレットに加え、パーフォレーションの形状も実はブランドを象徴するスターモチーフ。付属するロゴ入りのキャッチーな靴紐に付け替えることもできる。5万2000円(ジミー チュウ) 左: 流線形を描く黒ラインが、スポーティな横顔を演出。ヒールカップとアウトソールにあしらわれたドライビングシューズ由来のラバーペブルを見れば、わかる人にはトッズのものであることが一目瞭然。6万6000円(トッズ/トッズ・ジャパン)



LORO PIANA

[ロロ・ピアーナ]

撥水加工のスウェードとナッパレザーのトリミングを施した甲部は、伸縮性が高く、透湿性に富む素材。スニーカー 8万9000円、パンツ7万1000円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ 銀座並木通り本店)

ERMENEGILDO ZEGNA

[エルメネジルド ゼニア]

レースアップ顔だが、実はスリッポン。革ヒメッシュを組み合わせ、スポーティで快適な履き心地に。スニーカー 8万5000円、パンツ5万5000円(以上エルメネジルド ゼニア/ゼニア カスタマーサービス)



GIORGIO ARMANI

[ジョルジオ アルマーニ]

ネイビーのスウェードで切り替えた踵部分や、シェブロンディテールを施したトゥ部など、見どころ満載。ジャケット姿の品のよさを保ちつつ、コンサバに見せない見た目を演出できる。そのへんが、一流ブランドの白スニーカーならではの魅力。スニーカー 10万8000円、ジャケット31万円、Tシャツ3万5000円、パンツ16万円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)



SAINT LAURENT

[サンローラン]

金ロゴが目立つ白スニーカーは、上質革の柔らかな履き心地も出色。スニーカー 6万5000円、バッグ11万9000円(以上サンローラン ハイアンソニー・ヴァカレロ/サンローラン クライアントサービス)



SERGIO ROSSI

[セルジオリッショー]

シンプルに徹したデザインゆえ、エンボス加工のサイドロゴも映える。ラバーソールがしなやかなので、歩きやすさの面でも優秀。7万7000円(セルジオリッショー/セルジオリッショー カスタマーサービス)

HERMÈS

春雨さえも心地いい お洒落目線のレインコート。

三寒四温という言葉があるように、春の天気は変わりやすく、帰り道に春雨に遭遇することも。そんなときも、この〈エルメス〉のレインコートを着ていれば慌てることもなく、颯爽と街を歩けるはず。シャンヴル(麻)カラーのチェック柄は、雨具っぽくないナチュラルな配色なので、お洒落度が高く印象は自然体。この見た目でも撥水性バツグンだからちょっと驚く。立ち襟風にも着られる個性的な襟型もまた、センスのよさを演出してくれそうだ。

柔らかなコットンドリルのワイドパンツを合わせれば、コートゆったり感が引き立ち、リラックスした印象のシルエットバランスを楽しめる。コート54万1000円、ジャケット37万3000円、パンツ16万8000円(以上エルメス/エルメスジャパン)、その他はスタイリスト私物

見た目に軽快で温度調節も楽。

春を迎えるコートは “薄軽”が気持ちいい。

持ち物の小型・軽量化が進む昨今。ビジネスリュックやバッグもそう。財布にしても、キャッシュレス時代を背景に驚くほど小さなタイプが人気を博している。もちろんファッションも然り。たとえばスプリングコートも、今季はぐっと“薄軽”に。春風を受けてふわりと舞う姿は見た目に軽快で爽やか。当然、気分も新たになる。今回はそんなコートを贅沢ブランドからお届けしたい。

写真=野口貴司 スタyling=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋けいこ
撮影協力=マクラレーン オートモーティブ
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaVN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima special thanks: McLaren Automotive

GIORGIO ARMANI

旬なオフ白コートなら
存分に春気分が満喫できる。

ひと口に薄軽コートといっても使う素材によってニュアンスが違う。〈ジョルジオ アルマーニ〉のコートは、リネンにレーヨンをブレンドした素材で、軽やかで表情豊か。ドライな肌触りもすこぶる気持ちがいい。しかもフレッシュさがみなぎる白は、真っ白ではなくオフ白系。マイルドな印象を与えるショールカラーと相まって、大人らしい落ち着いた雰囲気が楽しめるはず。これなら気取った印象は全くなく、品のよさと爽やかさだけが醸し出される。

前開きで着ると緩やかなカーブを描くショールカラーは、ボタンをすべてとめるとコンパクトな襟型に。コート35万円、ジャケット26万円、シャツ10万8000円、パンツ11万8000円、シューズ7万7000円、バッグ10万3000円、バッグに巻いたストール6万3000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)



PRADA

コートを着たほうが
むしろ軽快に見えるという説。

スプリングコートといえども、スーツに羽織れば少し重い印象になりがち？ところが、〈プラダ〉の新作は例外。色はネイビースーツに映えつつ、華やかさも感じるコバルトブルー。エアリーな軽量ナイロン素材が使われていて、ご覧のとおり軽快さがある。しかも、後ろ身頃にあるジッパーを開くとマチが広がる設計。シルエットの変化が楽しめるだけでなく、雨の日はバックパックを背負ったまま着られ、荷物を水濡れからガード。そんな工夫も楽しい。

高密度ナイロン特有の光沢で、よりいっそう美しく見えるコバルトブルーが印象的な1着。左胸のトライアングルロゴで、さりげないブランド感もアピール。コート18万2000円、ジャケット19万7000円、シャツ6万4000円、ネクタイ2万4000円、パンツ9万9000円、シューズ参考商品、バッグ29万9000円※すべて予定価格(以上プラダ/プラダ クライアントサービス)



MACKINTOSH

気楽に着られるフード付き
コートにも大人感を。

19世紀初頭と変わらない製法のゴム引きコートのイメージが強い名門〈マッキントッシュ〉。実は春コートもすこぶる優秀だ。ミリタリーカラーが印象的なこのフード付きコートは、しなやかなナイロンの一枚仕立てで、今季のコレクションの中でも最軽量。ゆったりとカラダを包むシルエットのおかげで、着ていることを忘れてしまいそう。カジュアルウエアに限らず、チノパンやテイラードジャケットといったドレス系の服の引き立て役としても適任。

ナイロンコート10万9000円(マッキントッシュ/マッキントッシュ青山店)、チェックジャケット22万1000円(ベルヴェスト/八木通商)、チルデンニット2万1000円(トラディショナル ウェザーウエア/トラディショナル ウェザーウエア 青山メンズ店)、シャツ3万6000円(ポリエッコ/インターブリッジ)、タイ1万6000円(アーデー&シー 1956 ミラノ/インターブリッジ)、パンツ2万5000円(ヴィガノ/八木通商)、バッグ7万3000円(シャンボール セリエ/八木通商)、その他はスタイリスト私物

フィット感に惚るのは
やっぱり〈ジョルジオ アルマーニ〉。

オーダーメイドなら 春レザー姿も見違える。

軽やかかつしなやかなレザージャケットは、春にこそ袖を通したいもの。ところが、既製品でジャストフィットするものを探すのは意外と至難の業。そこで頼りになるのが、より身近に楽しめるようになった〈ジョルジオ アルマーニ〉のメイドトゥオーダーだ。

写真=池田佳史 スタイルング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋けいこ
photo: Ikeda Yoshifumi(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaVN)
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

メイドトゥオーダーのレザージャケット64
万円～、ストール5万円(以上ジョルジオ アル
マーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)
※納期約5週間

GIORGIO ARMANI



HOW TO ORDER FOR LEATHER

レザーのオーダーは意外と簡単。

メイドトゥオーダーで仕立てられるレザージャケットはブルゾン型を含む全3型で、これはその中のテイラードジャケットタイプ。ゲージサンプルのサイズは44～60まで用意されていて、それを試着しながら体型に合ったものを選んでいく。ボディの素材は6種類の革から選べ、ボタンや裏地等も多数ある中から自分好みの仕様を選ぶのが楽しい。イタリア仕立てでありながら、納期は約5週間という早さである点も好評を博している理由。レザー以外のスーツやテイラードジャケットなどの場合は、納期は約30日とさらにスピーディな仕立てが可能だ。

大 人の貴族出しに役立つレザージャケット。願わくは、上質素材で自分にぴったりなものを手に入れたい。しかし、いざ既製品を試着してみると、袖丈や着丈が長すぎたり逆に短かったり、身頃がタイトすぎてお腹まわりが気になってしまうなんてことも。でも、もうそんな壁にぶつかって妥協する必要はない。なぜなら、〈ジョルジオアル

マーニ〉の“メイドトゥオーダー”に頼れば簡単に解決するのだから。

このオーダーメイドサービスは、最高峰の“メイドトゥメジャー”という採寸オーダーに比べ、より身近に楽しめるシステムとして2017年に導入。現在はレザージャケットにも対応しており、ブルゾンに加え、写真のようなテイラード型も用意されている。オーダーする際は、ゲ

ージサンプルをベースに自分好みの革や裏地、ボタンなどのディテールを選べる。もちろん、仕立てはイタリアのメイドトゥオーダーの工場で行われるので、品質の高さは折り紙付きだ。しかもそんな確かな仕立てが、約5週間という期間でできてしまうのだから驚くばかり。これはお洒落と時間にうるさいビジネスマンの強い味方といえそうだ。

OMEGA

〈オメガ〉の新作があれば、 “007”コラボのご利益で 仕事もお洒落もボンド級!?

世界で最も有名なスパイ、ジェームズ・ボンドは〈オメガ〉のタフなダイバーズウォッチ“シーマスター”を愛用。ビルから飛び降り、水中に潜み、マシンガンを乱射しても、故障せずに動き続けるだけでなく、タキシードやスーツをクールに着こなすときには、しっかりと手元にクラス感を醸し出してくれる。“シーマスター”は、タフだけでなくお洒落な男の象徴でもあるのだ。

文=篠田哲生 構成=大嶋けいこ
text: Tetsuo Shinoda composition: Keiko Oshima

Seamaster Diver 300M 007 Edition

[シーマスターダイバー300M 007 エディション]

傑作ダイバーズをベースにした最新の“ボンドモデル”。300mの防水性能やプロダイバーが用いる飽和潜水に対応するためのヘリウムガス排出バルブを備える本格派ながら、ヴィンテージカラーやチタン製ケース&ブレスレットで違いを出す。搭載するムーブメントは、超高耐磁&高精度のマスタークロノメーター仕様のキャリバー8806。ケース径42mm、自動巻き、チタンケース&ブレス。99万円(オメガ/オメガお客様センター)



BACK

ミリタリーテイストの仕掛けは、ほかにもある。ダイヤルとケースバックには英国政府からの官給品を意味する“ブロードアロー”が刻まれる。さらに海軍所属を意味する“0552”などの数字コードも入り、本格的な雰囲気

と

きに紳士ボンドの手元で輝き、またあるときは、秘密道具としても活躍する007愛用の時計(オメガ)シーマスター。今年4月10日公開予定の007シリーズ25作目の映画『ノー・タイム・トゥ・ダイ』に合わせて製作された007エディションは、色やディテールでミリタリー色を強めた。

まずは日焼けした風合いのヴィンテージ風夜光塗料に目が引きつけられるが、実は最大のポイントは、ケースやブレスレットに軽くて頑強なチタン素材を使っ

ている点にある。これは「軍隊出身の007のような男は、軽量化された時計を好むに違いない」という主演ダニエル・クレイグの提案から導き出されたものというから、なんだか心が躍る。

300m防水の本格派ダイバーズだが、さらにミリタリー&軽量という個性を加えて、ファッション的にも使い勝手はハイレベル。もちろん映画ファンからの視線も心地よく、手元アピールの効果も絶大だ。ボンド級のタフでお洒落な男を目指す、もちろん仕事もうまくいく!?

For your unforgettable experience!

NEW HOTELS IN HAWAII

今こそ、アップグレードしたハワイを満喫!

ワイキキの一等地に、新しくお目見えしたリゾート3軒。ハワイ初の試みや、あのホテルのセカンドブランドなど、話題のプロパティ揃いにワクワク必至!?

文：古関千恵子 text：Chieko Koseki

01 1室1フロアのワンランク上のラグジュアリーが味わえる。

ESPACIO THE JEWEL OF WAIKIKI

[エスパシオ ザ ジュエル オブ ワイキキ]



カ

ラカウア大通りを隔てたデューク・カハナモク像の前。ワイキキビーチの真正面に、昨年9月にオープン。13F建てのタワーホテルに、客室はわずか9室。完璧にプライバシーが保たれるよう、1フロアにつき、1室しかない。モロッコの精緻なアートワークやイタリアの大理石をふんだんに使ったゴージャス仕様だ。

各部屋は宝石にちなんでテーマカラーがあり、広さは約230㎡。3ベッドルームに、リビング、プロ仕様のキッチン、ジャクジーを置く横長のラナイからなる。ラナイからはワイキキビーチを望み、眼下に視線を移せば、カラカウア大通り。まさにワイキキを象徴する眺めが広がる。メインベッドルームには数種の水流

マッサージ付きシャワー、セカンドルームはサウナ付き。〈ブルガリ〉のバスアメニティも各部屋のテーマカラーで統一されている。ルーフトップのインフィニティプールは、このホテルのプレステージ。バーベキューもアレンジできる。

空港からVIP対応の往復送迎、チェックイン時の〈ヴーヴ・クリコ〉のおもてなしから滞在ははじまり、高級車の無料レンタルなども料金に含まれる。これなら、ワイキキの王道的な楽しみ方を、贅を尽くして体験できる。

DATA

2452 Kalakaua Ave,
Honolulu, HI 96815, USA
+1-808-564-7615
<https://www.espaciowaikiki.com/>



02 ハレクラニのDNAを継承する気品とくつろぎ。 HALEPUNA WAIKIKI BY HALEKULANI

[ハレプナ ワイキキ バイ ハレクラニ]

絶

大なる人気を誇る、海に面した〈ハレクラニ〉の内陸側に2019年10月に開業した、姉妹ホテル〈ハレプナ ワイキキ バイ ハレクラニ〉。ハワイ語で“ハレ”は“館”、“プナ”は“泉”を意味する。かつてこの地が、王族たちが社交に集まった泉だったことに由来している。

天井の高いロビー、随所にちりばめられたアートなど、館内はまるで美術館のよう。288室のゲストルームは、〈ハレクラニ〉の流れを継ぐ白とブルーが基調。客室によっては、海が迫ってくるような圧巻のビューだ。

8Fにあるインフィニティプールは、海へと繋がるようなデザイン。ビーチベッドとカバナが並び、バーもある。さらに〈ハレクラニ ベーカーリー&レストラン〉は帝国ホテルからヘッドベーカーを招聘。人気はパイナップルココナッツカフェクロワッサン。



8Fのインフィニティプール。カバナでは〈スバ ハレクラニ〉のトリートメントも受けられる(要予約)



A：絶好の立地により、オーシャンビューの客室はワイキキの美しい海を正面に望むことができる。どの時間帯も見逃せない B：ハワイの島々の食材を使ったヘルシー料理は、新鮮で美味しいうえにカラダも心も整えてくれる

DATA

2233 Helumoa Road Honolulu,
HI 96815, USA
プリファードホテルズ&リゾーツ
0120-984-450 (日本語対応)
<https://www.halepuna.com/jp/>

“リブランドホテル”も見逃せない!



上から見ると“あなたもここにいたらなあま!”と書かれた、ホテル中央のプール



HOSHINO RESORTS THE SURFJACK HAWAII

[星野リゾート サーフジャック ハワイ]



A: ハワイで人気のアーティスト作品が飾られた客室は開放的 B: ハワイで活躍するアーティストのライブや週末クラブイベントを行うラウンジはポップなインテリアで気分上々

レトロなハワイを感じるライフスタイルホテル。

今、ハワイのホテルは改装ラッシュ。’60~’70年代に回帰する傾向に。ここも、“ワイキキを満喫する、レトロ・ブティックホテル”がコンセプトの居心地のいいホテル。ハワイで活躍するアーティストの作品が置かれ、地産地消とサスティナブルを目指すレストランなどが話

題を呼んでいる。今年1月から(星野リゾート)が運営を開始。今までとは違った雰囲気を楽しめそう。

DATA

④412 Lewers Street Honolulu, HI 96815, USA
☎0570-073-022 (日本語対応)
<https://surfjack.jp/>



ルーフトップのインフィニティプールからは、遮るものがないワイキキビーチが広がる。こんなテーブルセットもリクエストできる

A: 3ベッドルームが基本。ワイキキビーチ側にある主寝室がおすすめだが、その他の部屋でもサウナ付きなど魅力的 B: ジャクジーは天国の気分 C: ジャパニーズフレンチを供する(ムゲン)はスターシェフが腕を振るう

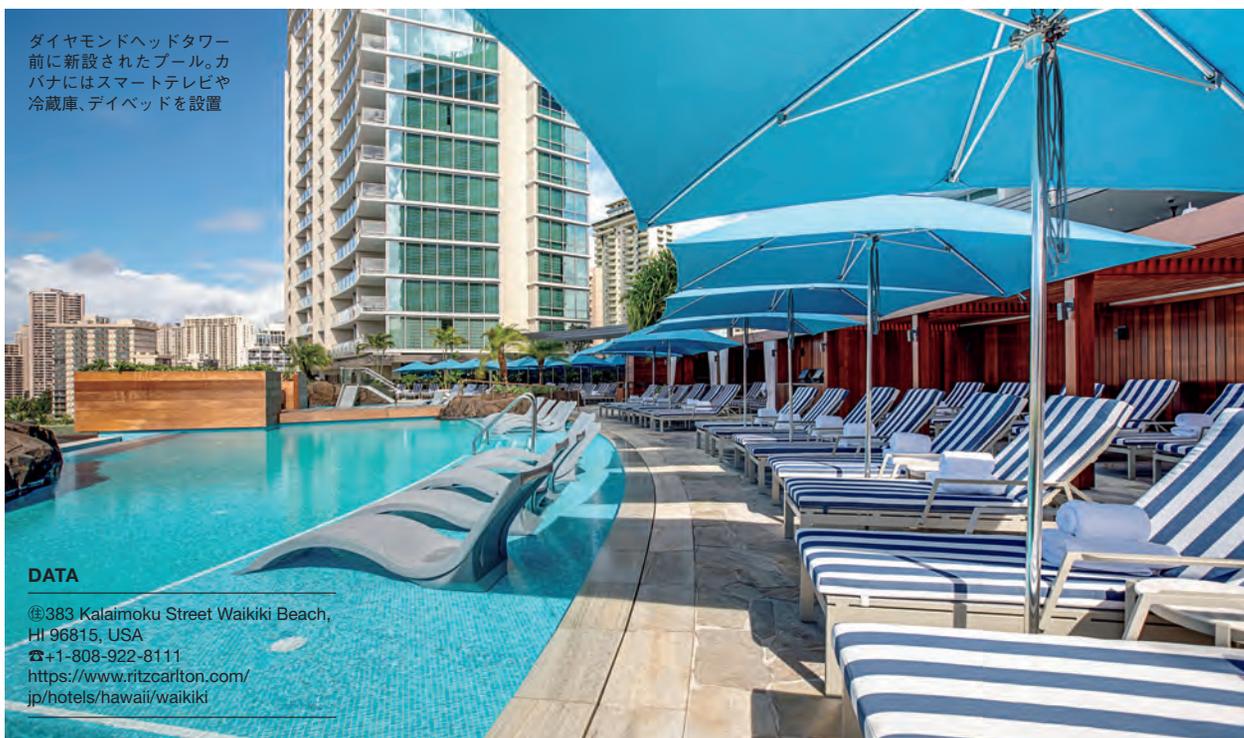


エ

ヴァータワーに続き、2018年10月にダイヤモンドヘッドタワーがオープンしたことで(ザ・リッツ・カールトン・レジデンス ワイキキビーチ)がついにコンプリート。8Fのパブリックエリアで2つのタワーが繋がった造りだ。

ダイヤモンドヘッドタワーは38F建て245室。エヴァータワーを加えると全552室。しかもレジデンスはすべてオーシャンビューだという。スイートは計246室となり、ハワイ最多。

客室の広さはエントリーレベルでも38㎡。フル装備のキッチンを用意、暮らすような滞在が叶えられる。施設も増設され、スパはカップルルームとリラクゼーションラウンジをプラス。従来のフレンチレストランに加え、イタリアンの(キオラ)を新設。さらにプールを増設し、ハワイ唯一の2つのインフィニティプールを備えることに。



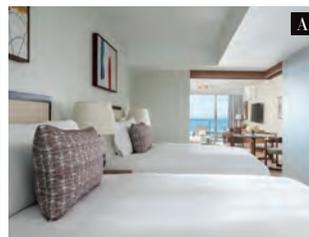
ダイヤモンドヘッドタワー前に新設されたプール。カバナにはスマートテレビや冷蔵庫、デイベッドを設置

DATA

④383 Kalaimoku Street Waikiki Beach, HI 96815, USA
☎+1-808-922-8111
<https://www.ritzcarlton.com/jp/hotels/hawaii/waikiki>

03 / **ダイヤモンドヘッドタワーが加わり、ついに完成!**
THE RITZ-CARLTON RESIDENCES WAIKIKI BEACH

[ザ・リッツ・カールトン・レジデンス ワイキキビーチ]



A: キッチンとバスルーム、そしてベッドルームと続くレイアウトで、各スペースをゆったりと使えるのが嬉しい B: エヴァータワーのプールも眺めがラグジュアリーなインフィニティエッジ。夜に入ってもロマンチックだ

Sweet Dreams in the Sky.

BED ON BOARD*

シートを倒せばフルフラットになるし、空路の移動はビジネスクラスで十分、と思っていないだろうか。ならば声を大にして言いたい、「それは全然違う」と。ロングフライトならなおさら、ファーストクラスを選択肢に入れてほしい。

いまや、就寝時のファーストクラスのシートは、まさに空の上の“ベッドルーム”と言っても過言ではない。プライバシーも寝具の快適性もこれまでより格段にアップしている。目的地に旅の疲れを残さずに降り立つことができるのだ。

たとえば、天井まであるドアを付けた完全個室の〈エミレーツ航空〉、カーテンで安らぎを約束してくれる〈エールフランス航空〉、窓を背にして寝られる〈シンガポール航空〉などなど。隣の席と繋げることができるシートも増えてきた。

ファーストクラスでは、好きな時間にCAさんが丁寧にベッドメイクをしてくれる。目的地の時間に合わせた時差調整も万全だ。隣の搭乗客が起きていても、照明が工夫されているので、ほとんど気にならないレベルとなっている。

そして、各社とも、寝具を一流寝具メーカーや高級ホテルとコラボしたり、機内用ウェアを高級アパレルブランドとコラボしたり。それらのクオリティの高さは、五つ星ホテルの客室そのものだ。

機内で配られるアメニティポーチには、男性用と女性用の2種類があり、それぞれに高級コスメブランドのスキンケア製品やグルーミングセットが入っている。

もちろん、スーツを着ていても、ハイヒールを履いていても、手ぶらで搭乗してOK。心地よい眠りのためのすべては、機内に揃っているのだから。

空の上に想像を超えるベッドルームがあります。

各社がアイデアを競うかのようなファーストクラスのシート。今回は就寝時の仕様に注目した。もはや、“ベッドルーム”と呼びたくなるほど快適だ。

文=たかせ藍沙
text : Aisha Takase



EMIRATES

【エミレーツ航空】

すべてのシートに窓がある世界初のシート。

ドイツの〈メルセデス・ベンツ〉とコラボしてデザインされた“ゲームチェンジャー”は、エミレーツ航空の2種類の“スイート”のうちの最新型。最大の特徴は、開閉式のドアが天井まであり、プライバシーが確保された完全個室となること。配置は1-1-1が2列で、すべてのシートに窓がある。中央のシートの窓はモニターが埋め込まれていて、なんと外の風景がリアルタイムで映し出されるという、世界初の仕様だ。

天井や壁の照明は7色から好きな色を選ぶことができる。ミニバーは各シート内に備えられているが、“ドンペリ”はCAさんにお問い合わせ

AIR FRANCE

【エールフランス航空】

カーテンで仕切られたシートは自宅のベッドルームのような心地よさ。

通路との仕切りは柔らかなカーテン、枕元にはテーブルランプが置かれ、機内であることを忘れてしまいそうなデザインの“ラ・ブルミエール”。カーテンを閉めていれば、CAさんは緊急時を除いて声をかけることはない。羽根枕、羽根布団、マットなどの寝具は、フランスのホテルチェーン・ソフィテルが特許を持つ“Sofitel My Bed”。1-1が2列の4席のみ。その名のとおり、限られた人しか乗ることができないプレミアムなシートだ。



ベッドの長さは200cm超の特大サイズ。淡いグレーが基調で深紅の毛布が差し色になっているのはファッションの国ならではの

CATHAY PACIFIC AIRWAYS

【キャセイパシフィック航空】

業界最大級幅の特大シートでのびのびと寝返り。

シート幅約91cmという特大サイズのベッドになる“プライベートスイート”は、1-1-1という並び。通路側にドアはないが、中央のシートの左の通路側に仕切りがあってプライバシーが確保されている。機内用ウェアは香港ブランド〈P Y E〉とのコラボで、種子の研究と栽培に15年以上を費やした高品質のコットンを使用。寝具も英国発ブランドである〈バンフォード〉の600スレッドカウントの高密度コットンの掛け布団など、上質な睡眠のための肌触りを重視している。

ライトグレーのシートは天然皮革製。各シートにランの生花の一輪挿しが飾られている



ETIHAD AIRWAYS

[エティハド航空]

ベッドを収納可能にすることでスペースを広々使ったシート。

3室で構成された世界で最も豪華な「ザ・レジデンス」で知られるエティハド航空。今回ご紹介したいのはファーストクラスに相当する「ファーストアパートメント」だ。通路側にドアが付いたこのシートは、1-1で並んだ横長の占有スペースが特徴。ソファのようなシートとは別に、テレビの下に収納されているベッドを倒すようになっている。前後に隣り合わせたシートのパーテーションを降ろすとベッドの一部が繋がる仕組み。



ベッドの角度は進行方向に向かって横向き。通路側を頭にする事で、隣のシートと半ダブルベッドにできる



SINGAPORE AIRLINES

[シンガポール航空]

窓を背にして2席を繋げた画期的ダブルベッド。

シンガポール航空は、ビジネスクラスの上に数種類の「ファーストクラス」を持つ。そのうち、A380R型機の最新の「スイート」は、1-1の並びが3列の6席。それぞれの座席にはシートとは別にベッドがある。また、前方2席のベッドは、なんと進行方向に向かって横向きで、前後のシートの仕切りを外せばダブルベッドになるのだ。従来の「スイート」は中央のシートを繋げるスタイルだったが、新型では窓側のダブルベッドを実現させた。

ダブルベッドの両隣にあるシートは、離着陸時には進行方向に回転させて座るとい仕様。寝具はフランスのラグジュアリー社製で、同社の刺繍が施されている

JAL

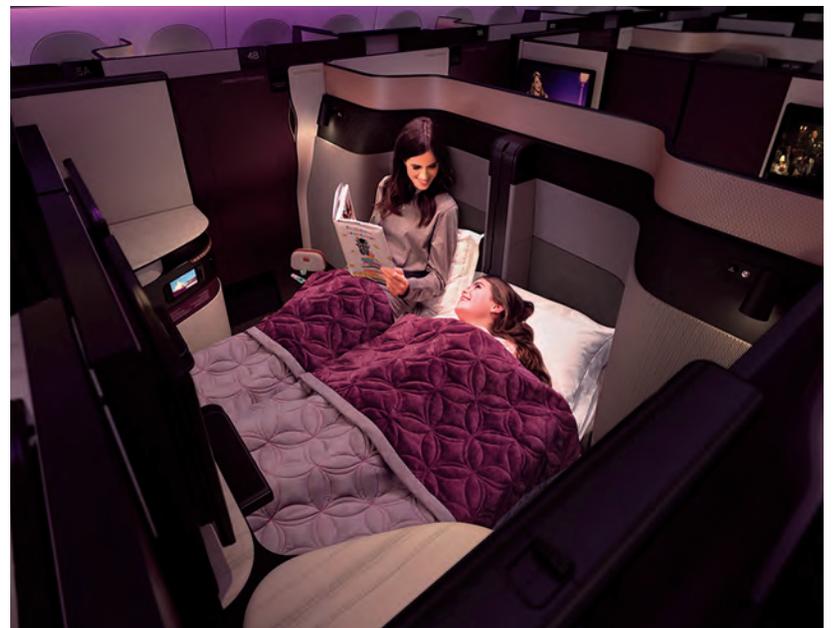
[日本航空]

木目調が特徴の温かみのあるインテリア。

ボックス型の「JALスイート」は、ダークブラウンを基調として木目調をあしらい、高級感と温かみを兼ね備えたインテリアとなっている。ベッドの際に使用するマットは、表と裏とで硬さが違う特別仕様の「エアウィーヴDUAL MODE」。好みの硬さをリクエストできる。枕は「エアウィーヴピロース-LINE」で、横向きに寝ても首や肩に負担をかけるないグレモノだ。機内ウエアはオーガニックコットン100%で肌触りがいい。



上: (エアウィーヴ) のマットと枕がカラダをしっかり支えて極上の眠りに導いてくれる
下: テーブルや収納ボックスは木目調で統一。温もりを感じられるインテリアだ



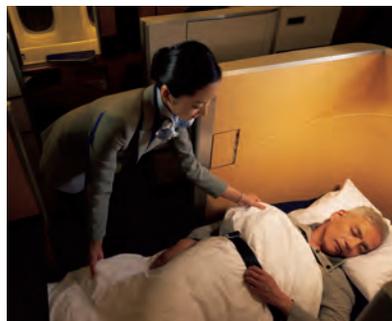
QATAR AIRWAYS

[カタール航空]

ビジネスクラスでもダブルベッドが出現!

ビジネスクラスではじめてダブルベッド仕様を導入したのがカタール航空の「Qスイート」。進行方向と逆方向のシートが互い違いに配置されていて、パーテーションを降ろすと、4席で同時に向かい合うことができる。半個室になるドアも付いていて、ビジネスミーティングや家族連れに好評だが、このシート、ダブルベッドにすることもできるのだ。本文でファーストクラスを強く推奨したものの、このシートに限っては例外的におすすめしたい。

ビジネスクラスでは珍しく、機内ウエアも用意。イギリスの〈ザ・ホワイト・カンパニー〉の上質なコットン製の



上: 従来の「ANA FIRST SQUARE」は、イスの状態では深いブルーが基調で、ベッドにすると淡い木目調のシェルが現れる 右: 新型の「THE Suite」はA380型機に導入。今年3月現在、ニューヨークやロンドンなど一部の路線に就航。順次路線が増える予定



ANA

[全日本空輸]

新型シートのデザインは建築家・隈研吾氏監修。

2019年8月に導入が開始された「THE Suite」は、建築家・隈研吾氏の監修。日系航空会社ではじめてドアを付けた個室型となり、随所に「和」のエッセンスが取り入れられている。シートには西川と共同開発した特殊立体構造ウレタンが内蔵され、掛け布団は西川独自の加工で保温力を向上させた羽毛布団、毛布はカシミアとオーガニックコットンを併用した柔らかい〈テネリータ〉製、枕にはハンガリー産ホワイトダックダウンを使用。ちなみに、機内ウエアはオーガニックコットン100%だ。

M-65 FIELD BLOUSON

[M-65 フィールドブルゾン]

男らしさと高級感に加え、
軽快さが三位一体に。

男らしさの演出にはうってつけなM-65型フィールドブルゾン。しかし、その多くはミリタリーテイストの強いゴワゴワの生地で、大人が着るには男くさすぎることもある。ところが、これはそうしたクセの強さはゼロ。ボディの生地には、見た目にもしなやかなハイカウントファブリックを使用。軽量ながらしっかりと張りがあるので、シルエットが引き立つのがポイント。一方で、ほんのり玉虫色の光沢が浮かぶ生地染めにより、高級感も印象づけられる。上品なスカーフが似合うのもありがたい。

きれいに立ち上がるように計算されたスタンドカラーなど、細部まで大人らしさを巧みに表現。襟のジッパーを開けば、フードを出して着ることも。ブルゾン5万3000円、ニット2万3000円、パンツ(4月上旬発売予定)3万5000円、シューズ5万6000円、スカーフ9000円、下のカラーバリエーションに合わせたドット柄スカーフ2500円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAIカスタマーサポート)、その他はスタイリスト私物



color variation

PAUL STUART

色褪せないNYスタイルが息づく
(ポール・スチュアート)の新作。フレッシュな気分になれる
軽快ウエアで春の街へ。

奇をてらったような服はご免だが、気のきいたデザインや素材で新鮮さは味わいたい。そんなときにお誂え向きなのが、NYスタイルが息づく(ポール・スチュアート)の新作。なにしろどの服も素材が軽やかで、新鮮さを感じる染色や加工が随所に盛り込まれたもの。しかもシルエットはスタイリッシュ。さすがにNYブランド、出来が違う。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋けいこ
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaVN) hair&make-up: Megumi Matsumoto
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



color variation
FIELD BLOUSON
【フィールド ブラゾン】

C



A



color variation
COTTON LINEN KNIT
【コットンリネンニット】

D



color variation
STRETCH PIQUET PANTS
【ストレッチピケパンツ】

B

D
マイルドな発色と柔らかな風合いが目を引く秘密は、その素材。コットンとリネンの混紡素材で、なおかつ2色の色を燃った空糸を使用。このうえなく優しい手触りと味わい深い色合いが楽しめる。首まわりもタイトすぎない、少しゆるめな設計。ブランドを象徴するロゴもボディに映える配色で、リラックス感の追い風に。

ふんわり感と清涼感が同居する天竺編みを採用しており、着心地も抜群。ニット各2万3000円、スカート79000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

C
こちらのブルズンは、ブラックでより落ち着き感のある着こなしを楽しめる。フラップポケットに加え、左右の胸に縦ポケットも付いたマルチポケット仕様。見た目のアクセントになると同時に、収納力も高い。ウエストにはドロコードも備わっており、調節によってシルエット変化を楽しむこともできる。

袖もほどよい太さ。伸縮性に富む素材だから脱ぎ着しやすいのも魅力。ブルズン4万9000円、帽子2万3000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

B
見るからに軽快なこのトラウザーズは、表面を起毛させたコットンストレッチピケ素材。高級感がありながら伸縮性バツグン。足取り軽く歩けそうだ。シルエットは脚が美しく見える細身のテイパード。裾幅が細いのでスニーカーに合わせてもバランスがいい。股上はやや深めの設計で、大人が安心して穿ける点も嬉しい。

綾目がきれいに見える、微起毛素材が特徴的で上品な印象に仕上がっている。パンツ各2万1000円、ベルト9900円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

A
ミリタリーテイストのブルズンだが、伸縮性に優れたストレッチ素材ゆえに動きやすさ抜群。空気が冷たい早朝や夕方の羽織りものにもうってつけだろう。そんなテクニカルな素材ながら、風合いはコットンライクでマットな仕上がり。大人の落ち着きあるネイビーを纏いながら、モダンなお洒落が楽しめそうだ。

ブルズン4万9000円、ニット2万3000円、Tシャツ1万5000円、パンツ2万1000円、帽子1万5000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)



color variation
JERSEY JACKET
 [ジャージジャケット]

C



A



color variation
STRETCH TROUSERS
 [ストレッチトラウザーズ]

D



color variation
POLO SHIRT
 [ポロシャツ]

B

D
 春とはいえ、カラーパンツを穿くのは少し勇気がある。しかし、このトラウザーズは、ボールパイオ加工という特殊な製法でほんのりフェード感のある色調に。シルエットもすっきりとした細身のテイバードだからさらりと穿け、春を感じる装いを気軽に楽しめる。ストレッチがきいているので、しゃがむのもラクだ。

ストレッチワークもシンプルでエレガント。股上は深めの設計。パンツ各2万1000円、ベルト1万5000円、シューズ6万2000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

C
 こちらのジャケットは、合わせる装いを選ばないネイビーとライトグレーに加え、オリーブもラインナップ。いずれも芯地を極力省き、背抜きで仕立てたアンコン仕様。表地に加え、裏地にもストレッチのきいた素材を採用しているの、締めつけ感なしの着心地に。街への外出はもちろん、春旅の相棒としても重宝しそうだ。

アンコンとはいえ、フォルムは端正。ニットタイなどでタイドアップするのもおすすめ。ジャケット各6万3000円、帽子2万3000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

B
 春は、休日らしいジャケットスタイルの演出に活躍するポロシャツ。Vゾーンから見えるこの色使いで、季節感を印象づけるのはどうだろう。甘然りの糸を用いた鹿の子生地を採用した1着。この生地によって見るからに優しい風合いに。第一ボタンを開けたときの立体感にこだわった設計ゆえ、ジャケ映えは抜群。

写真の他に、白・ピンク・赤・ネイビー・パールの全8色展開。ポロシャツ各1万2000円、帽子4万3000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

A
 ジャケット姿を春らしく見せたいときは、軽い素材を選ぶのが近道。麻の一種であるラミーをバスケット編みジャージに仕上げたこの1着は、まさに“春らしさ魅せ”にお誘え向き。しかもボディは、シーズナルカラーの“椿ピンク”。華やかながら気負った印象を与えない色彩もまた、大人らしい春の演出にちょうどいい。

ジャケット6万3000円、ポロシャツ1万2000円、パンツ2万1000円、帽子4万3000円、スカーフ1万1000円(以上ポール・スチュアート/SANYO SHOKAI カスタマーサポート)

SEERSUCKER JACKET

[シアサッカージャケット]

機能性が嬉しいテイラードジャケット。

シアサッカーの爽やかさには惹かれるが、カジュアルすぎて着られる場所が限られそう？ いえいえ。実はこのジャケットは、サッカー調のニット素材をストライプ柄に仕上げた1着。都会的なジャケット姿だって気軽に楽しめる。さらに、カットソー素材の柔らかさが味わえるよう、背中に縫い代のない一枚取りに。また、ラベルの裏側の隠しダーツで、胸まわりが立体的に見えるのも特徴。ニットジャケットであることを感じさせない美シルエットは、こうした技ありの仕立てでなくては実現できない。

胸部に入れた芯地のおかげで、カットソー素材の着心地を損ねず胸元のカーブも美しく、肩まわりに発生しがちな“タスキジワ”も軽減する。ジャケット4万9000円、Tシャツ1万5000円、パンツ(4月上旬発売予定)2万3000円、シューズ4万9000円、スカーフ6500円、帽子4万3000円(以上ポール・スチュアート / SANYO SHOKAI カスタマーサポート)



information

〈ポール・スチュアート〉では、3/13(金)～29(日)まで、各店舗でスプリングコレクションフェアを開催。期間中、お買い上げ金額に応じてポイントが最大5000ポイントプレゼント。詳しくは、新しくスタートしたアプリからチェック！



ECCO

ケタ違いの快適さが嬉しい〈エコ〉。

ドレスシューズの履き心地も スニーカー並みの時代へ。

ジャケットやスーツにも快適さが求められる時代。では、ドレスシューズはどうか。伝統的な作りを重視すると、やっぱり履き心地も“それなり”のまま？ 答えは否。〈エコ〉が手掛けた新感覚のビジネスシューズは、革新的なソール構造がスニーカーのようなクッション性と柔軟性をもたらしてくれるもの。この快適さがドレスシュー選びの新基準になりそうだ。

写真＝筒井義昭、正重智生 スタイルング＝浅井秀規 ヘア&メイク＝松本 恵 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋けいこ
photo: Yoshiaki Tatsui, Tomoo Syoju(BOIL) styling: Hidenori Asai
hair&make-up: Megumi Matsumoto text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

上質感が漂うジャケパン姿に、これ以上ないくらい映えるダブルモンクシューズ。すっきりとした美しい横顔からは想像もつかないが、クッション性が高く、とても歩きやすい。ジャケット21万4000円(ベルヴェスト/エストネーション)、シャツ1万5000円(エストネーション)、パンツ3万1000円(ロータ/エストネーション)、チーフ6000円(フィオリオ/エストネーション)、シューズ4万6000円(エコ/エコ・ジャパン)

右:透明感のあるプレミアムレザーが映えるブレードトゥは、ビジネスにも対応できるクラシカルな作り。他モデル同様、優しいフィット感で通気性に富むレザーライニングを採用。3万8000円(エコー/エコー・ジャパン)

中:流れるようなシェイプが目目を引く、ダブルモンクストラップ。艶やかなカウレザーは、一般的な革靴と同じく、シューケアを行いながら履き続けることで味わい深さを増す。4万6000円(エコー/エコー・ジャパン)

左:つま先のメダリオンによって華やかさを加味。フォーマル色の強い内羽根も相まって、エレガントな足元を印象づけられる。この見た目とソールが高機能というギャップも新鮮。4万6000円(エコー/エコー・ジャパン)

モデル着用は
コレ!

information

名だたるブランドにプレミアムレザーを供給している(エコー)グループの(エコーレザー)。そのレザーの可能性を表現したイベントが、伊勢丹新宿店メンズ館で3/24(火)まで開催。世界でひとつのオリジナルバッグや革小物を作るDIYコーナーや、カスタマイズシューズ作りなど体験型イベントが多数。(トリッカーズ)などのブランドとタグを組んだ、ここでしか買えない限定アイテムも見逃せない。

VITRUS MONDIAL

[ヴイトラス モンディアール]

洗練された見た目をいい意味で裏切るコンフォート感が白眉。



足裏を支えるシャンクに加え、クッション性に富むフットベッドも内蔵。ソール構造自体は人間工学に基づいた設計。これだけの副資材を使いながら、ドレス感を保っている点も出色

“ヴィトラス モンディアール”と呼ばれる新シリーズの最も特徴的な点といえるのが、革新的なソール構造。これは弾力性のある衝撃吸収性ポリウレタンとアッパーを一体成型する製法を用いたもの。先に導入されていた同社のスニーカーでは、非常に歩きやすく、1日履いても疲れにくいソールとして高い評価を得ている。加えて、足裏全体をサポートするシャンク(芯材)も軽快な足取りをアシスト。一般的なドレスシューズのように履き慣らしの必要がなく、最初から足裏の形状に馴染むのも魅力だ。それでいて、アッパー自体は、プレミアムレザーを用いた高級感あふれる仕上がり。出張の相棒としても頼りになりそうだ。

ブランド伝統の素材が
楽しめる歴史的名作。

表地に優れた機能性を誇る「グレンフェルクロス」を採用。裏地のタータンチェックが、表地とのコントラストを演出。ウエスト部のバックルでシルエットの表情を変えることも可能。各6万9000円(以上グレンフェル/Safari Lounge)



欲しいと思ったら、
今すぐ『Safari Lounge』へ!
買いどき!

UrbanSafari

〈グレンフェル〉ゴルファー



「グレンフェルクロス」は、エジプトの最高級綿糸を織りこんだ高密度コットンギャバジン素材。防風、耐久性に富む



着こなすならこんな感じで!

大人らしい品格ブルゾンで 休日のひとときを颯爽と。

春 のビジネスシーンでは「薄軽」コートが必携だが、カジュアルシーンでは短丈のブルゾンがなにかと役に立つ。当然こちらも薄軽なものを選びたいのだが、気になるのが薄軽素材ゆえに、安っぽく見えないかということ。でもご安心を。そんな心配を払拭してくれるブルゾンがある。それが英国の老舗ブランド〈グレンフェル〉の「ゴルファー」。もともとステンカラーコートやトレンチコートといったコート作りを得意とする同ブランド。このブルゾンは、

そんなコートが持つ上品さや風合いを落としこんだようなデザインで、英国の気品の中に大人好みの風格が宿る。さらに、独特な光沢感とカラダの動きを制限しない快適なフィット感は、「グレンフェルクロス」ならではの。これさえあれば、サッと羽織った姿もサマになるし、文字どおりゴルフの相棒にもぴったり。スラックスやチノと相性がすこぶるよいが、デニムと合わせてみるのも面白いだろう。カラーは春にふさわしい、オフホワイトとあざやかなスカイブルーの2色が選べる。



オフホワイトのブルゾンの場合は、さっぱりとした着こなしを心掛けるとよい。たとえば同色のチノと合わせてセットアップ風に着ると、より爽やかで上品な印象に。着こなしにほどよいアクセントを添えるならチェックシャツで、白を拾った柄なら全体の調和がとれる

購入方法

〈グレンフェル〉のブルゾンのご購入は『Safari』公式オンラインストアで。

今回ご紹介の〈グレンフェル〉の2品をはじめ、『Safari Lounge』では春の注目アイテムが豊富にラインナップ。今すぐアクセス!

safarilounge.jp



Gastronomic City
OKINAWA*

美食ダイニングの島として、世界が注目する沖縄。

沖縄は世界屈指の長寿の島々であり、それが地元の伝統的な料理に支えられていることは、国内外で知られるところである。しかし最近、ローカル料理店だけでなく、世界に比肩しうる、高レベルのレストランが少なからず誕生し、沖縄に美食革命を起こしつつある。

取材・文=中村孝則 text:Takanori Nakamura

沖

縄には古くから「ぬちぐすい」という言葉がある。直訳すると命の薬という意味で、いわゆる「医食同源」に通じる考え方が古くから根づいている。ローカル料理の数々はまさにその象徴で、沖縄に旅する楽しみのひとつなのだが、沖縄の食の魅力はそれだけではない。この近年、世界の美食家たちを唸らせるようなレストランが誕生しはじめ、富裕層たちを呼びこむ、新たな観光資源になりつつあるのだ。

その筆頭は、昨年の夏に沖縄県恩納村にオープンした高級ホテル、〈ハレクラニ 沖縄〉内の〈Shiroux(シルー)〉だろう。ここは、東京・外苑前〈フロリレージュ〉の川手寛康シェフが監修するイノベティブ・レストランだ。沖縄の食材や食文化を基軸にした、川手シェフの独自のクリエイションはどれもユニークで、沖縄の美食のポテンシャルすら感じずにはいられない。海の中に誘われたような素敵な空間と優雅なサービスで味わう美食体験は、沖縄の印象すら変わることだろう。

まもなく開業3年目を迎える〈ザ・ひらまつ ホテルズ&リゾート 宜野座〉のレストランも特筆に値するだろう。先だって、久しぶりに訪れたが、木下善信シェフの料理には磨きがかかり、沖縄でしか味わうことのできない、独自のフランス料理を確立しつつあり、大いに驚かされた。木下シェフによると、地元沖縄の生産者や漁師たちを巡り、独自のルートで食材を仕入れて、オリジナル料理を作りあげているのだとか。レストランだけの利用も可能なので、是非訪れてほしいと思う。

最後に、ニューオープンではないが、伝統的な琉球料理の〈美楽〉をご紹介します。締めくくろう。この店は1958年創業で、琉球王国の朝廷料理の伝統を今に受け継ぐ名店として知られている。手間と時間を惜しまず作り上げる吸い物の「なかみ」や、美しい東通盆の「七品盛り」など、洗練の極致とも思える味わいやプレゼンテーションは、舌の肥えた世界の美食家たちをも驚かせるに違いない。



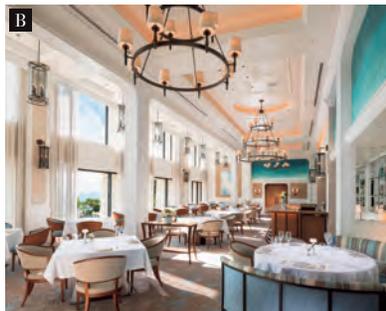
取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼 修業』（世界文化社）がある。2013年より「世界ベストレストラン50」の日本評議委員も務める。さらに、グラナバダーノとバルマハムの親善大使に任命されている。



DATA

④沖縄県国頭郡恩納村名嘉真 1967-1
⑤7:00～10:30 (L.O)、
17:00～21:00 (L.O)
無休
☎098-953-8600 (ホテル代表)
<https://www.okinawa.halekulani.com/>



Shiroux

【シルー】

川手シェフが紐解く沖縄ガストロノミーに舌鼓。

ハワイを象徴するホテル、ハレクラニの初の海外拠点として、昨年の7月にオープンした、〈ハレクラニ 沖縄〉。そこにある〈シルー〉のコンサルティングシェフ川手寛康は、「アジアベストレストラン50」で5位、ミシュランで2つ星の実力者。沖縄の食文化を再構築し、どこにもないユニークな料理に挑んでいる。

A:「豚足 イラブー」。通称イラブーとは、沖縄で採取され燻製にされたエラブウミヘビのこと。沖縄ではこの燻製を煮こんだイラブー汁を宮廷料理として食してきた。この料理は、イラブーの出汁とほぐした身を炊いた雑穀米の滋味あふれる一品。B:海に面した店内は天井も高く、開放感も抜群。C:「アーサータルト」。ヨモギや島唐辛子など。D:「もとぶ牛 骨髄」。沖縄育ちのブランド牛

Mie

【美楽】

琉球宮廷料理で
沖縄の洗練を味わう。

地元の名士たちに愛された老舗の名店。趣ある店構えもさることながら、琉球の伝統漆器や焼き物を使った調度品も素晴らしい。琉球王朝が諸外国との外交でふるまった伝統的な料理の数々を今に伝える数少ないお店である。その伝統文化を知るうえでも是非訪れてほしい。



A:「らふてい」。言わずと知れた、豚を使った沖縄の伝統料理であるが、こちらは、皮目も用いた本格的な一品。B:店内は、往時の首里城の内部を彷彿とさせるような高貴な佇まい。C:こちらは琉球伝統漆器「東通盆」に盛られた「七品盛り」。どれも泡盛との相性は抜群

DATA

④沖縄県那覇市久茂地 1-8-8
⑤11:30～15:00、18:00～22:00
⑥日曜 ☎098-867-1356
<http://ryukyuu-mie.com/>

The Hiramatsu
Hotels & Resorts Ginoza

【ザ・ひらまつ ホテルズ&リゾート 宜野座】

これぞ沖縄のフランス料理。

自然豊かな沖縄本島の東海岸に面したスモールラグジュアリーホテルレストランではひらまつらしく、フランス料理の基礎をみっちり修業した木下善信シェフが、沖縄の食材を独自のアイデアで紐解き、独自の沖縄フレンチを創作する。

DATA

④沖縄県国頭郡宜野座村字松田1425
⑤17:30～20:00 (L.O)
(※宿泊者以外のレストラン利用は
ディナーのみ)
不定休 ☎098-968-5600
<https://www.hiramatsuhotels.com/ginoza/>



A:「フーチパー」薫るホタテ貝のブランチャー。やんばる茸のブルゴーニュ風。フーチパーとは沖縄で育つハーブ、ニシヨモギのこと。その独自の風味とホタテの組み合わせは、未知なる美食体験だ。B:「宜野座特産車海老のナージュ 茴香とリンゴのムースリズ」。地元の海の新鮮な車海老の魅力や、ハーブ類やリンゴの風味で引き立てた逸品に思わず舌鼓を打つ

